

11月定例会 天守閣木造復元の継続審査反対討論 江上ひろゆき議員(12月7日)

「責任は市長にある」 市長は議案取り下げを 議会は否決を

12月7日の本会議で江上ひろゆき議員は、名古屋城天守閣の特別会計予算を継続審査することに対し、反対の討論を行いました。以下概要です。

市長と当局 重要事項で食い違い

12月5日の経済水道委員会で審議中に、定例記者会見において河村市長は、技術提案交渉方式に基づく優先交渉権者の選定について、事業者と契約をすでに締結したかのように発言しました。この点について、「契約に至っていない」とする当局との間での認識の違いは明らかです。認識の違いがありながら、手続きを進めてきたことは無責任であり、この方式に基づく天守閣木造化手続きは、白紙に戻すべきです。



費用拡大のおそれ

また、今議会で、提案した事業費505億円以内について、「上昇することも考えられる」と、契約もしていないのに契約予定額の増額の可能性を示唆したことも問題です。

経済水道委員会での継続理由(骨子)

12月5日の市長定例記者会見における市長の発言から、技術提案・交渉方式に対する、市長と当局の認識の違いが明らかになりました。

可決を含めた議決のためには、完成期限や総事業費などについて、市長、当局、優先交渉権者3者の協議が整った状況で審議を進める必要があります。

このような状況に鑑みると、契約に対する考え方について、市長と当局で改めて認識を一致させる必要があります。

また、完成期限の見直しに当たっては、プロポーザル事業の公平性の観点から評価委員の意見を再聴取するとともに、6月定例会における指摘以降も未実施である入場者数・収支見込みについての第三者機関への調査依頼の早急な実施を受けて検討する必要があります。

公募をやりなおせ

9月議会において、「2020年7月まで」としていた完成期限を「2022年7月まで」に2年延長する提案は、事業者公募の前提条件を覆すものであり、契約手続きの公平性・公正性を損なうものです。完成期限を延長するのであれば、公募そのものをやり直すのが筋です。

責任者たる市長は取り下げを

6月議会から審議時間がかかっているのは、市長発言を含む市側の責任であり、当局は「議会に責任はない」と答えています。技術提案交渉方式の大前提である完成期限や事業費の変更まで議論になっている議案は取り下げるべきです。

議会は否決を

取り下げないのであれば、市政の監視役である議会として、継続でなく採決し、きっぱり否決すべきであることを日本共産党名古屋市議団は求めます。

公明が継続に 減税が可決に転換

自・民・公は「継続審査」を、減税は継続でなく「可決」をそれぞれ主張し、自民公の多数で3回目の継続審査となりました。9月議会では公明は継続に反対、減税は継続を主張していました。

日本共産党名古屋市議団 市政懇談会

日時 2016年12月21日(水)
午後6時30分～8時30分

会場 名古屋都市センター
14階 特別会議室
(地下鉄・JR・名鉄「金山」駅南口すぐ)

内容 11月定例会報告(保育国民営化や
図書館指定管理、天守閣など)